

薬剤部



薬剤部長
小林 勝昭

平成30年3月31日まで

専門医資格等

日本医療薬学会指導薬剤師
日本医療薬学会認定薬剤師
認定実務実習指導薬剤師
日本病院薬剤師会認定指導
薬剤師



薬剤部長
本田 芳久

平成30年4月1日現在

専門医資格等

薬剤師認定制度認証機構認証
生涯研修認定薬剤師
日本薬剤師研修センター認
定実務実習指導薬剤師
日本病院薬剤師会認定指導
薬剤師
大阪大谷大学薬学部
臨床教授

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏 名	専門資格等
副薬剤部長	粉川 俊則	
副薬剤部長	桶本 幸	日本医療薬学会認定薬剤師、NST専門療養士
治験主任	松田 恭子	
病棟主任	古川 順章	日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師、日本緩和医療薬学会麻薬教育認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師、生涯研修履修認定薬剤師
薬務主任	山本 修平	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師、生涯研修履修認定薬剤師、感染制御認定薬剤師
医薬品情報 主 任	小田 亮介	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師、生涯研修履修認定薬剤師
調剤主任	竹松 茂樹	日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師
製剤主任	畑 裕基	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師
実習担当 主 任	辰己 晃造	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師、日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト、日本在宅薬学会在宅療養支援認定薬剤師
薬 剤 師	喜田 孝史	小児薬物療法認定薬剤師
薬 剤 師	沖 遼子	
薬 剤 師	松本真理子	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
薬 剤 師	西村 容徳	
薬 剤 師	田淵 寿美	
薬 剤 師	宮地由香里	
薬 剤 師	熊谷 康平	
薬 剤 師	野田 拓誠	
薬 剤 師	植田 裕美	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

薬 剤 師	小玉美季子	
薬 剤 師	井上 麻美	
薬 剤 師	岸本 周子	
薬 剤 師	杉本 有香	
薬 剤 師	前川由季奈	
薬 剤 師	市原 英則	
薬 剤 師	藤井 大和	
薬 剤 師	上田 浩人	
薬 剤 師	吉川智菜美	
薬 剤 師	吉水 浩史	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト
薬 剤 師	安達昂一郎	
薬 剤 師	馬場 雅子	
薬 剤 師	物部加容子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
薬 剤 師	神林 由樹	
薬 剤 師	岡 知代	
薬 剤 師	柴 俊輔	
薬 剤 師	半井 春香	

□ 診療科の特徴

1. 各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算を特殊病棟を含め実施している。
2. 外来化学療法室での抗がん剤無菌調整、レジメンチェック、服薬指導を実施している。
また、薬剤師外来(化学療法)を設置し、がん患者管理指導料算定業務をおこなっている。
3. 救命救急、ICU、NICU病棟に専任の薬剤師を配置し、ハイケア患者に対する薬物療法の質の向上を図っている。
4. ICT、NST、がん、緩和医療をはじめとしたチーム医療と各診療科の専属薬剤師が連携を取り、医師やその他の医療従事者と共働で入院患者の薬物療法の質の向上に努めている。
5. 早期体験実習生、長期実務実習生の受け入れなど質の高い教育研修を行っている。
6. 平成24年度に京都薬科大学と、また平成28年度に摂南大学と包括協定を締結し、教育や臨床研究の発展を図っている。
7. 治験・臨床研究実施におけるCRC業務等を実施している。

□ 診療(業務)内容

「薬学的介入によるアウトカムの検証」

<病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務>

医師、看護師らとの連携により、可能な限り入院患者の初回投与時及び退院時の服薬指導を実施するとともに、薬剤管理指導の増大と医療の質の向上に寄与する。

<医薬品の安全性の確保>

積極的に副作用情報を収集し、医薬品の安全性を確保するとともに医薬品情報の収集・提供体制の強化を図る。さらに、プレアボイド情報の収集に努め、迅速な対応を行う。また、医薬品関連インシデントの解析から、病棟専任薬剤師が医療事故防止策に積極的にアプローチする。

<注射薬の無菌調整業務>

全診療科の抗悪性腫瘍剤の無菌調整を実施し、医療従事者の安全性を確保するとともに医療事故の防止に努める。

患者の安全性確保のため抗悪性腫瘍剤のレジメン管理の適正化を薬剤師主導で実施する。

<医薬品管理の適正化>

薬事委員会を通じて同種同効薬の整理を行い、採用医薬品数の縮減に努める。

<教育研修・研究>

積極的に各種研修に参加し資格認定及び専門薬剤師等の取得に努める。

薬学実務実習生、研修生を積極的に受け入れ、質の高い教育研修を行う。また、業務の効率化及び医療の質の向上を目的とした研究業務を行い、学会などに積極的に参加する。

<調剤過誤防止>

ヒヤリ・ハット報告の収集・分析・対策を迅速に行い、再発防止に努めるとともに監査の徹底により調剤過誤を減少させる。

<チーム医療、クリニカルパスへの参画>

薬剤師の専門性を活かした業務を推し進め、緩和ケア、糖尿病療養、ICT、NST、救命救急などのチーム医療に貢献する。また、クリニカルパスの運用において、薬剤部として積極的に関わり薬物療法の適正化に努める。

<地域医療連携の強化>

地域連携パスにおいて、服用薬の管理等、薬学的管理事項に関与し、在院日数の短縮に貢献するとともに、お薬手帳で薬薬連携の充実を図る。

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	竹松 茂樹、小田 亮介、金井 修、桶本 幸、粉川 俊則、小林 勝昭 当院におけるエムトリシタビン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠の使用状況について 第31回日本エイズ学会 2017.11.24 東京
国内学会	辰己晃造小玉美希子、古川順章、粉川俊則、桶本幸、小林勝昭、河鱈憲幸、土屋宣之 多発性骨転移、顎骨壊死に対して高用量オピオイドを用いてコントロールを行った症例 日本臨床腫瘍薬学会 2018.3.17 横浜
国内学会	辰己晃造、古川順章、桶本幸、小林勝昭、藤枝英美 当院の退院時服薬指導書の実態調査と今後の展望 近畿薬剤師合同学会大会2018 2018.2.4 京都
国内学会	畑 裕基、植田 裕美、喜田 孝史、吉水 浩史、上田 浩人、市原 英則、井上 麻美、沖 遼子、野田 拓誠、粉川 俊則、桶本 幸、小林 勝昭 「安全な抗がん剤調製のためのチェックリスト」を用いた抗がん剤調製トレーニングの効率化と曝露対策 近畿薬剤師合同学会大会2018 2018.2.3 京都

□ 投稿論文など

著 者	タ イ ト ル ・ 著 書 ・ 雑 誌 名
桶本 幸、佐光 留美、寛野 律、本田 芳久	薬剤師非常駐手術室における他職種間協働による医薬品管理改善への取り組み、日本病院薬剤師会雑誌 2017;53(7):853-858
桶本 幸、秋山 功、本田 芳久	急性期における薬物治療を施行した脳梗塞患者の栄養摂取方法と意識障害の検討、医療薬学 2017;43(10):569-576